

議会だより

定例会

平成30年第3回定例会は9月12日に招集され、提出された案件を審議し14日に閉会いたしました。

承認

○専決処分の承認を求めることについて
 ・平成30年度北竜町一般会計補正予算(第2号)について

同意

○教育委員会委員の任命について
 ・9月30日任期満了のため任命に同意
 深瀬 アユミ氏(再)
 ○公平委員会委員の選任について
 ・10月3日任期満了のため選任に同意
 川瀬 崇氏(再)

○固定資産評価審査委員会委員の選任について

・9月26日任期満了のため選任に同意
 金山 智徳氏(再)

原案可決

○財産の無償譲渡について(旧アパレル縫製工場)
 ○財産の無償譲渡について(旧鉄道官舎)
 ○公益法人等への職員の派遣等に関する条例の制定について

○乳幼児等医療費の助成に関する条例の一部改正について
 ○北空知葬斎組合規約の変更について
 ○北空知葬斎組合の解散について

一部修正可決

○平成30年度北竜町一般会計補正予算(第3号)について
 ・既定予算額に114,777千円を追加し、総額を3,565,192千円とする補

正予算を一部減額修正し、既定予算額に100,521千円を追加し、総額を3,550,936千円とする。

原案可決

○平成30年度北竜町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)について

・既定予算額に3,687千円を追加し、総額を329,519千円とする。

○北竜町介護保険特別会計補正予算(第1号)について
 ・既定予算額に3,890千円を追加し、総額を301,890千円とする。

○平成30年度北竜町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)について
 ・既定予算額に442千円を追加し、総額を428,442千円とする。

○平成30年度北竜町農業集落排水事業及び個別排水処理事業特別会計補正予算(第2号)について
 ・既定予算額に361千円を追加し、総額を111,705千円とする。

○平成30年度北竜町簡易水道事業会計補正予算(第1号)について
 ・収益的収入で1,442千円増額し、総額69,402千円とする。

・収益的支出で1,329千円増額し、総額83,600千円とする。

認定

○平成30年度北竜町一般会計外6会計(国保・診療所・後期高齢・介護・特老・集落排水)の歳入歳出決算認定と平成30年度北竜町簡易水道事業会計決算認定について

・決算審査特別委員会(山本剛嗣委員長)を設置し、その審査を付託、休会中に審査を行い認定されました。

意見書提出

次の意見書を可決し、関係省庁に送付いたしました。
 ○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書

一般質問

3名の議員から3件の一般質問がありました。質問内容については、11月号に掲載予定です。

中央要望

「北空知議会議長連絡協議会中央要望」参加報告

参加議員 松永・北島

去る8月7日から9日にかけて、北空知議会議長連絡協議会主催による中央要請行動が行われ、深川市・秩父別町・沼田町・妹背牛町・北竜町の管内1市4町より議員各2名、事務局2名の計12名が上京しました。

7日は東京都の江戸川区役所を訪問し、「子供の食の支援事業」について説明を受けた後、懇談をしてみました。

8日には、衆議院議員渡辺孝一氏の事務所を起点に稲

津・渡辺・神谷衆議と道内選出参議院議員9名に「農業振興及び農業農村の整備」、「自由貿易協定に対する対応」、「地域医療の充実確保」、「JR北海道の経営再建の支援」を主題とした要望書を提出、午後から農林水産省・総務省の各担当職員より要望書に沿った現況の説明等を受けた後、それらについて意見交換を行い、両省庁へ要望書を提出し全行動日程を終了し、9日に帰省しました。



議員コラム

「地域おこし協力隊」ってご存知ですか？ 本来は、都市地域に住む若者が過疎地域などの農山村に生活や活動の拠点を移し、地方自治体の企画する地域振興事業などに携わる事で、隊員一人当たり年間四百万円を上限として国から交付税措置される事業の事です。

発足当初の2009年、31自治体89人だった隊員数が、2017年には997自治体4830人と激増し、隊員の役7割が20〜30代で女性は全体の4割を占めているそうです。隊員となった動機としては、都会に居場所を見いだせなく、田舎に自分の「居場所」と「役割」を求めて応募する方が多いようです。その派遣先で地域を支えているという

充実感に浸った後、概ね3年間の任期終了後、そのまま定住する人が約6割もいるとの事です。人と人の繋がりが薄い都市部では得られない「自分の存在感」というものが地方（特に田舎）では発揮し易く、実感もし易いのではないかと思います。

本町でも過去数名の協力隊員の方がいましたが、現在は、昨年からの若年性認知症対策に取り組んでおられる干場功さんだけで、中々定住とまではいつていないのが現実です。毎年のように色々な企画や事業が計画されますが、役場職員やボランティアだけでは継続性に不安があるのも事実で、このような事業をもっと活用すべきだと思います。

(北島勝美)